

《红楼梦》“妹妹”称谓语的日译研究<sup>①</sup>  
A Study on the Japanese Translation of  
“sister” Appellation in *The Dream of the Red Chamber*

刘 珏

**【内容提要】**《红楼梦》中的“妹妹”称谓语多为复合结构，主要有四种类型：“姐姐／哥哥＋妹妹”、“姓／名＋妹妹”、“敬辞＋妹妹”和“排行＋妹妹”，具有泛称、爱称、敬称、昵称和谦称等语义功能。井波陵一日译本在对译词的选择上，遵循了语境原则、话者身份地位原则、亲疏意识原则、交际意图原则和统一原则。译本最大程度地尊重了原文。

### 一、话题提起

汉语亲属称谓词是一个庞大而复杂的系统，经典文学作品《红楼梦》中的称谓语作为汉文化内涵的重要载体<sup>②</sup>，体现了交际者的社会地位、宗法关系、男女性别、年龄差异、文化修养、心理定位及交际动机<sup>③</sup>。其称谓翻译也因此受到学界的广泛关注。但现有研究大多集中在对英译本的考察上，对日译本的学术关怀尚少，值得进一步探讨。

由于该作品以金陵十二钗的女性群体像为描述主体，因此姐妹类的称谓语尤其代表性。其中“姐姐”一词的语义和语法功能与日语的「姉」「姉さん」「姉ちゃん」极为接近，大部分译本采用了直译的手法，比如将“宝姐姐”直译为「宝姉さん」、「三姐」直译为「三番目のお姉さん」等。但相比之下“妹妹”一词在翻译成日语时就复杂了许多。虽然日语中也有「妹」「妹さん」一词，但仅用于谈及自己的妹妹或他人的妹妹时使用，相当于汉语的“舍妹”“令妹”，并不具备直接称呼他人的功能。这就使得含“妹妹”一词的称谓语（下称“妹妹”称谓语）在多数情况下没有现成的日语对译词，无法直译，比如“林妹妹”不能译为「林妹さん」。

事实上，“妹妹”一词在《红楼梦》中的使用频次极高，仅在前45回中就出现了143次，而且其变体多达十多种，具有表达亲近、请求原谅、调整社会距离等复杂的人际语用功能，在翻译成日语时难度较大，需要译者对不同情境有准确的理解和把握，结合说话人的语用意图作出相应的调整<sup>④</sup>。

基于以上思考，本文以日本岩波书店2013年出版的井波陵一译本（以下简称“新译本”<sup>⑤</sup>）为研究文本，依托自建的《红楼梦》汉日平行语料库，梳理“妹妹”称谓语的类型、日语翻译特点，为日语翻译教学提供参考。

## 二、研究方法和考察对象

虽然《红楼梦》的日译本较多，但市面上尚没有相关的汉日平行语料库，在做日语对译研究时需要对本和译本进行人工检索，这无疑给本研究的数据统计带来了一定的难度。为解决以上课题，本研究采用分类分析法和数据统计法相结合，先总结归纳原本中“妹妹”称谓语的类型，然后选取一定章节进行统计，分析出各类型的使用频率和分布特点，最后对照日译本分析和总结各类型“妹妹”称谓语的日译方法和特点。

第一，《红楼梦》中“妹妹”称谓语共有 15 种形式，除直接使用“妹妹”一词外，其余 14 种变体均为复合型称谓语。从其结构来看可分为四类：1)“姐姐/哥哥+妹妹”，多为泛指，比如“姐姐妹妹”“哥哥妹妹”。2)“姓/名+妹妹”，如“林妹妹”“宝妹妹”，这一类中“林妹妹”的使用频率最高；3)“敬辞+妹妹”。这里的敬辞主要是“好”“大”，其中“好妹妹”的使用频率最高。此外，“大妹妹”一词也经常呈现出“姓氏+大妹妹”的结构，如“史大妹妹”。4)“排行+妹妹”，如“三妹妹”“四妹妹”。

第二，关于以上 15 种称谓的使用情况和分布规律，笔者进行了抽样统计。由于《红楼梦》全书共 120 回，曹雪芹撰写了前 80 回，高鹗续写后 40 回，考虑到写作风格的一致性，本研究以曹雪芹版本为考察对象。为使统计数据尽可能反映出日译方法和规律，本次研究抽取 1-45 回作为统计语料，对含“妹妹”一词的称谓语进行穷尽性分析。由于抽样样本覆盖了超 50% 以上的原本，可以确保样本统计的有效性。

笔者以人民文学出版社 1982 年出版的《红楼梦》和日本岩波书店 2013 年出版的井波陵一新译本为语料自建了汉日平行语料库。以“妹妹”为关键词对前 45 回进行抽样检索，对其使用频率进行了统计（表 1）。

表 1 《红楼梦》前 45 回中“妹妹”称谓语词频统计

序号	含“妹妹”的词	词频	序号	含“妹妹”的词	词频
1	妹妹	62 (43.36%)	9	四妹妹	2 (1.4%)
2	林妹妹	29 (20.28%)	10	薛妹妹	2 (1.4%)
3	好妹妹	22 (15.38%)	11	史妹妹	1 (0.7%)
4	大妹妹	7 (4.9%)	12	云妹妹	1 (0.7%)
5	姐姐妹妹	4 (2.8%)	13	宝妹妹	1 (0.7%)
6	三妹妹	5 (3.5%)	14	花妹妹	1 (0.7%)
7	史大妹妹	3 (2.1%)	15	哥哥妹妹	1 (0.7%)
8	薛大妹妹	2 (1.4%)			

基于语料库的翻译研究普遍认为通过类符与形符的比值可以看出文本中不同词汇的使用情况，两者比值越大说明该文本中使用的不同词汇越多<sup>⑥</sup>。新译本《红楼梦》前 45 回中“妹妹”称谓语类符、形符统计如表 2 所示。

表2 新译本《红楼梦》前45回中“妹妹”称谓语类符、形符统计

	原文	新译本
类符	15	35
形符	143	142
类符形符比率	10.49%	24.65%

原文前45回中“妹妹”称谓语一共有15种（类符），使用次数为143次（形符）。新译本前45回中与之对应的称谓语译出频率为142次，对译词一共有35种。新译本类符形符比值远远高于原文，说明译者在翻译“妹妹”称谓语时选择了多样化的翻译手法。

### 三、泛称的日译

“姐姐妹妹”“哥哥妹妹”这类意义宽泛、不特定指向某个具体人物的称谓语，新译本根据词义、说话人身份地位，采用了音译、直译、译为敬称或译为尊称等多种翻译手法。

#### （一）使用音译

音译在新译本中只有一处，如例（1）。这里的“妹妹”可以理解为挨打时乱喊乱叫发出的声音，新译本把它音译为「妹妹（マイマイ）」。

（1）“每打的吃疼不过时，他便‘姐姐’‘妹妹’乱叫起来。”（第2回）

打たれて痛くてたまらない時、その子はいつも「姐姐（ジェジェ）」、「妹妹（マイマイ）」と喚き散らす。

#### （二）直译

原文中的“妹妹”有时指血缘关系，与日语的「妹（いもうと）」意思相同，新译本选择了直译。

（2）正说着，只见宝钗那边笑道：“说完了，来罢。显见得是哥哥妹妹了，丢下别人，且说梯己去。我们听一句儿就使不得了！”（第27回）

そう言っていると、宝钗があちらで笑いながら言いました。「お話が終わったら、こちらへいらっしゃいな。やっぱり兄さんと妹ですね。他人をうっちゃって、内緒話をなさっておいんです。わたしたちは一言半句たりとも漏れ聞いてはならないのですね」。

#### （三）译为敬称

日语在谈及他人的家庭成员时通常在称谓后面加「さん」表示敬意，如「お父さん」「弟さん」等，例（3）中的“妹妹”是指听话人贾宝玉的家人，译为敬称「妹さん」符合林黛玉的身份。

（3）黛玉一闻此言，登时将脸放下来，问道：“想是你要死了，胡说的是什么！你家倒有几个亲姐姐、亲妹妹呢，明儿都死了，你有几个身子去作和尚？”（第29回）

黛玉はこの言葉を聞くや、サッと顔をこわばらせて尋ねました。「きっと死ぬ気だとおっ

しゃりたいのでしょうか？何をそんなデタラメを！あなたのお家には実のお姉さんや妹さんが何人もいらっしゃるではありませんか。将来、皆さんがお亡くなりになったら、何人のあなたがお坊さんになりますの？」

#### （四）译为尊称

日语用「お／ご+称呼／身份+さま」的结构表示尊称，例（4）译为「お嬢さま」符合茗烟作为仆人的身份地位，体现了他对主人的恭敬。

（4）茗烟答应，且不收，忙爬下磕了几个头，口内祝道：“……只是这受祭的阴魂，虽不知名姓，想来自然是那人间有一，天上无双的极聪明极俊雅的一位姐姐妹妹了。……”（第43回）

茗烟は「ハイ」と答えますが、すぐには片付けようとせず、急いで地面にひれ伏して何度も叩頭し、口では祈りを捧げて言いました。「……ただ、このたびお祭りを受けた陰魂は、お名前こそ存じ上げぬとはいえ、きっと人の世に一人だけ、天上に双びなき、きわめて聡明、きわめて俊雅なお嬢さまでございましょう」。

## 四，爱称的日译

《红楼梦》中含“妹妹”一词的爱称很多，如“妹妹”、“三妹妹”、“四妹妹”、“花妹妹”、“姓+妹妹”等。新译本根据说话人的心理、身份地位、交际意图和亲疏意识等分别采用直译、意译、对称词、昵称、敬称或尊称等方法作了不同的处理。

### （一）直译

爱称多用直译的手法。例（5）中的“三妹妹”是宝玉对亲妹妹探春的称呼，对译词「三の妹」是直译。

（5）宝玉笑道：“你提起鞋来，我想起个故事来了：那一回我穿著，可巧遇见了老爷，老爷就不受用，问是谁做的。我哪里敢提‘三妹妹’三个字，我就回说是前儿我生日，是舅母给的。”（第27回）

「あんたが靴のことを話題にしたので、一つ思い出した。わたしがあれを穿いていた際、ちょうどお父上に出会ったのだけれど、お父上はお気に召さなかつたらしく、「誰がこしらえたのか」とお尋ねになった。「三の妹です」と答えるわけにもいかず、「先だってわたくしの誕生日に、おばさまが下さった物です」と申し上げたんだ」。

例（6）中的“花妹妹”是平儿对袭人的称呼，两人不是血缘关系，对译词「花の妹」显然不符合日语习惯。这里是把“花妹妹”作为专有称谓来直译的，保留了其作为专有名词的客观性。后文中有“宝玉素日因平儿是贾琏的爱妾，又是凤姐儿的心腹，故不肯和他厮近，因不能尽心，也常为恨事。”的说明，直译体现了贾宝玉对平儿不敢贸然亲近的谨慎心理，符合其人际关系语用意图。

（6）（宝玉）又道：“可惜这新衣裳也沾了，这里有你花妹妹的衣裳，何不换了下来，拿些烧

酒喷了，熨一熨。把头也另梳一梳，洗洗脸。”（第43回）

また言いました。「可惜（もったいない）！その新しい衣裳も濡れてしまいましたね。ここにはあなたの花の妹の衣裳があるから、お脱ぎなさい。焼酒を吹き付けて火熨斗を当てましょう。髪も改めて梳かなくちゃ。」

## （二）意译

日语中「義妹」表示姻亲关系。例（7）中贾珍称王熙凤为“妹妹”，实质上指的是姻亲关系。新译本将之翻译为「義妹」是意译，后面加上「さん」是敬称。

（7）贾珍便忙向袖中取了宁国府对牌出来，命宝玉送与凤姐。……又问：“妹妹还是住在这里，还是天天来呢？若是天天来，越发辛苦了。不如我这里赶着收拾出一个院落来，妹妹住过这几日倒安稳。”（第13回）

賈珍はさっそく袖の中から寧国府の割り符を取り出すと、宝玉から熙鳳に渡してもらい、……また尋ねました。「義妹さんはこちらにお泊りになりますか？毎日お越し願うとなれば、ますますご苦勞をおかけすることになります……。こちらでどこかの建物を急いで片付けて、義妹さんにこれから何日間かお泊りいただく方が穩当でしょう」。

## （三）译为对称词

日语会话中，兄长称呼妹妹时倾向于使用对称词「あなた」<sup>9)</sup>。例（8）是贾宝玉初见林黛玉时的对话，译文用「あなた」来翻译“妹妹”一词，凸显了贾宝玉的亲态度和，符合其“尊重女性”的一贯思想。

（8）宝玉便走近黛玉身边坐下，又细细打量一番，因问：“妹妹可曾读书？”黛玉道：“不曾读书，只上了一年学，些须认得几个字。”宝玉又道：“妹妹尊名是那两个字？”黛玉便说了名字。宝玉又问表字。黛玉道：“无字。”宝玉笑道：“我送妹妹一妙字，莫若‘颦颦’二字极好！”（第3回）

宝玉はそこで黛玉に近づいてそばに座り込み、またひとしきりじっくり眺めた後で尋ねました。「あなたは書物をお読みになったことがおありですか？」「まだです。一年間手ほどきを受けて、文字をいくつか覚えたにすぎません。」「あなたのお名前はどの二文字なのですか？」黛玉はそこで名前を名乗ります。宝玉はさらにあざなを尋ねます。黛玉は言いました。「あざなはありません。」宝玉は笑いながら言いました。「わたしがあなたにピッタリのあざなをお贈りしましょう。「颦颦」の二文字こそうってつけです」。

除了「あなた」之外，表示近称的指示代名词「こちら」也可以用于指代关系亲近的人或尊长。例（9）中将“妹妹”译为「こちら」，一方面表明王熙凤与林黛玉同属一个集团，另一方面表达了对林黛玉及贾母一方的恭敬，展现了王熙凤希望通过亲近林黛玉来讨好贾母的人际语用意图。

（9）这熙凤听了，忙转悲为喜道：“正是呢！我一见了妹妹，一心都在他身上，又是喜欢，又是伤心，竟忘记了老祖宗。该打，该打！”（第3回）

熙鳳はそれを聞くと、急いで笑顔に戻して言いました。「そうですね。こちらにお会いし

た途端、こちらのことばかり考えて、嬉しくもあり、悲しくもあり、なんとまあ、おばあさまのことを忘れてしまいました。すみません、すみません。」

#### （四）译为昵称

《红楼梦》中用“妹妹”直接称呼对方多出现在哥哥向妹妹道歉、求饶的场景中，新译本将这一语境中的“妹妹”统一译为了昵称「单字+ちゃん」结构。其中「ちゃん」表示亲昵，而用名字中的一个字可以加强亲昵语气，如例（10）（11）。这样翻译突出了说话人说软话、求饶时亲和友好的人际语用意图。

（10）薛蟠听说，连忙笑道：“妹妹这话从哪里说起来的，这叫我连立足之地都没了。妹妹从来不是这样多心说歪话的人。”（第34回）

薛蟠はそれを聞くと、急いで笑いながら言いました。「宝ちゃんのその話はどこから出てきたの？それじゃあ、私はまるで立つ瀬がなくなるよ。宝ちゃんはこれまでそんな風にあれこれ気を回してひねくれた話をするような人じゃなかったのに。」

（11）宝玉接近床来，笑道：“妹妹身上可大好了？”黛玉只顾拭泪，并不答应。宝玉在床沿上坐了，一面笑道：“我知道妹妹不恼我。但只是我不来，叫旁人看着，倒是咱们又拌了嘴了。等他们来劝咱们，那时，岂不咱们倒生分了？不如这会子，你要打要骂，凭着你怎着罢，可只是别不理我。”（第29回）

宝玉は笑いながら言いました。「黛玉ちゃん、だいぶ好くなられたのですか？」黛玉はひたすら涙を拭うばかりで、何も答えません。宝玉はそこでベッドの縁に寄り添うように座ると、笑いながら言いました。「黛玉ちゃんがわたしのことを怒っていないのは分かっています。ただ、わたしが来ないと、傍から見れば、まるでわたしたちが口喧嘩したように映るでしょう。もしもあの人たちがわたしたちを諫めたりしようものなら、その時にはわたしたちはかえってお互いの間に溝ができたように感じるのではないのでしょうか？だったらいま、打つなり罵るなり、あなたのお好きなようにしてくださるに越したことはありません。どうかわたしを相手にしないということだけはなさらないでください」。

此外，新译本将“姓+妹妹”和“名+妹妹”统一译为「名+ちゃん」，将“排行+妹妹”译成了「排行+ちゃん」结构，如例（12）（13）（14）。

（12）凤姐道：“二十一日是薛妹妹的生日，你到底怎么样呢？”……贾璉听了，低头想了半日道：“你今儿糊涂了。现有比例，那林妹妹就是例。往年怎么给林妹妹做的，如今也照依给薛妹妹做就是了。”凤姐听了，冷笑道：“我难道连这个也不知道？……想来若果真替她做，自然比往年与林妹妹做的不同了。”（第22回）

熙鳳は言いました。「二十一日は宝釵ちゃんの誕生日ですが、いったいどのようにすればいいかしら？」……賈璉はそれを聞くと、俯いてしばらく考えてから言いました。「あんた、今日は芽えてないね。現に参考になる例があるよ。黛玉ちゃんにしてあげたことを、今回同じように宝釵ちゃんにもしてあげればいいじゃないか」。熙鳳はそれを聞くと、冷笑して言いました。「わたしがそれすら覚えていないとでも？……もしも本当にそうなりたいという

ことであれば、当然これまで黛玉ちゃんにしてあげたのとは同列に論じられないと思うの」。

(13) 刚说着，只见宝玉来了，笑道：“云妹妹来了。前儿打发人接你去怎么不来？”（第31回）

そう言っているところへ宝玉がやって来て、笑いながら言いました。「雲ちゃん、いらっしやい！この前、人を遣ってあなたを迎えに行かせたのに、どうして来なかったの？」

(14) 宝玉看了，不觉喜得拍手笑道：“倒是三妹妹的高雅，我如今就去商议。”（第37回）

宝玉はこれを読むと、思わず嬉しくなって手を打ち、笑いながら言いました。「なんと三ちゃんの高雅なこと！ただちに相談に行くとしよう」。

(五) 译为敬称

有时为了更好地展现说话人的心理世界，译者往往根据交际双方的亲疏关系选择不同的对译词。比如同样是“林妹妹”一词，「林の妹さん」所表达的心理距离就比「黛玉ちゃん」疏远得多。例(15)的“林妹妹”是贾宝玉初见林黛玉时的称谓，新译本把它处理为敬称「林の妹さん」，而把此后贾宝玉口中的“林妹妹”统一译成了昵称「黛玉ちゃん」<sup>⑥</sup>。《红楼梦》第三回中有“贾母因笑道：‘外客未见，就脱了衣裳，还不去见你妹妹！’宝玉早已看见多了一个姊妹，便料定是林姑妈之女，忙来作揖”的场景。对译词「林の妹さん」通过有意识地突出姓氏来区分内外，符合林黛玉的“外客”身份，同时也很好地展现出了贾宝玉见“外客”时的谨慎态度，昵称「黛玉ちゃん」则可以体现出两人熟识之后心理距离的微妙变化。

(15) 探春便问：“何出？”宝玉道：“《古今人物通考》上说：‘西方有石名黛，可代画眉之墨。’况这林妹妹眉尖若蹙，用取这两个字，岂不两妙！”（第3回）

探春は何に出ているのかと尋ねます。宝玉は言いました。「『古今人物通考』にこう言っているよ。「西方に黛という名の石があり、眉を画く墨の代わりになる」とね。ましてこの林の妹さんは眉が尖って顰めたような感じだから、この二文字を選べば、二重の意味でぴったりだよ」。

又如例(16)中王夫人将心中的顾虑告诉了薛宝钗，即在王夫人的一贯认知中，薛宝钗、“凤丫头”和自己是同一集团，可以共商对策，而外人林黛玉不可靠。对译词「林の妹さん」体现了说话人强烈的内外亲疏意识。

(16) 王夫人道：“刚才我赏了她娘五十两银子，原要还把你妹妹们的新衣服拿两套给她妆裹。谁知凤丫头说，可巧都没什么新做的衣服，只有你林妹妹作生日的两套。我想你林妹妹那孩子素日是个有心的，况且她原也三灾八难的，既说了给她过生日，这会子又给人妆裹，她岂不忌讳！……”（第32回）

「いましがたあの子の母親に五十両の銀子を与えたところです。もともとあなたの妹たち用の新しい衣裳を二組ほど選んで、あの子の死装束にしようとしたのですが、鳳ちゃんによれば、あいにく新作の衣裳は一つもなく、あなたの林の妹さんの誕生祝用のものが二組あるだけだということでした。わたしが思うに、あなたの林の妹さんという子は日頃から気を回す人だし、ましてや何かと不幸せな目に遭っているから、すでに誕生日あげると告げたもの

を、今回また他人の死装束として与えるとなれば、どうして嫌がらずに折れましょう。」

再如前文例(12)中新译本将“林妹妹”和“薛妹妹”译为昵称「黛玉ちゃん」「宝釵ちゃん」，而在例(17)中却将二人翻译为敬称「黛玉さん」「宝さん」。前者体现出贾府主事者对客居者的怜爱之情，后者则是有意区别于“宝兄弟”的对译昵称「宝ちゃん」，使两者之间形成反差来凸显说话人的亲疏意识，从而展现出王熙凤讨好奉承贾母的人际意图。

(17) 凤姐儿又笑道：“我还有一句话呢。我想老祖宗自己二十两，又有林妹妹、宝兄弟的两份子。姨妈自己二十两，又有宝妹妹的一分子，这倒也公道。……”（第43回）

熙鳳はまた笑いながら言いました。「まだお話がありますの。わたくしが考えますに、おばあさまはご自身の二十両のほかに黛玉さんと宝ちゃんの二人分があります。（薛の）おばさまにはご自身の二十両のほかに宝さんの分がありますから、これは公平だと申せましょう」。

此外，日语通常在对方的称谓后面加「さん」用以表达敬意，而日本女性在称呼他人时，主要使用“姓氏称呼”和“名字称呼”两种方式，这两种方式会反映出不同的亲疏关系<sup>⑥</sup>。

例(18)中“神仙似的妹妹”中的“妹妹”特指林黛玉，是贾宝玉初次见面时对林黛玉做出的评价，新译本译为敬称“妹さん”，符合日语表达习惯。而在例(19)探春、宝釵、迎春谈及或称呼林黛玉的场景中，新译本均把“林妹妹”译为了敬称「黛玉さん」，其中单字「黛」显示亲昵，「さん」体现礼貌，展现了姊妹间相敬如宾的和睦氛围，构建出和谐的人际关系景象。

(18) 宝玉满面泪痕泣道：“家里姐姐妹妹都没有，单我有，我就没趣，如今来了这么一个神仙似的妹妹也没有，可知这不是个好东西！”

宝玉は顔じゅう涙で濡らして泣きながら言いました。「うちのお姉さまも妹も誰一人もっていないのに、私だけが持っているなんでつまらなかったんです。今回こんな仙女のような妹さんがいらしたのに、やっぱりお持ちではないんだもの。こいつはいい物じゃないことが分かったでしょ！」

(19) 迎春因说道：“林妹妹怎么不见？好个懒丫头！这会子还睡觉不成？”（第27回）

迎春はそこで言いました。「黛玉さんはどうして姿を見せないのでしょうかね？ぐうたらさんだこと！こんな時間になってもまだ寝ているのかしら？」

#### (六) 译为尊称

日语的尊称除了例(4)的「お／ご+称呼／身份+さま」结构之外，还可以用「お／ご+称呼／身份」（如例(20)的「ご姉妹」）、「称呼／身份+さま」（例(21)的「妹さま」）等结构表示。从尊敬程度来看，前者远高于后两者。前文例(4)中，茗烟的地位远低于例(20)中贾宝玉的奶母李嬷嬷和例(21)中贾宝玉的大丫鬟袭人，因此“妹妹”的对译词也选用了尊敬程度更高的「お嬢さま」。值得一提的是，《红楼梦》前45回中“妹妹”称谓语并没有表示尊称的义项，新译本中却有意选用了表示尊称的对译词，这是对话者身份的构建。

(20) 宝玉的奶母李嬷嬷因说道：“天又下雪，也好早晚的了，就在这里同姐姐妹妹一处玩玩罢。”（第8回）

宝玉の乳母の李ばあやはそこで言いました。「雪模様になってまいりましたし、時刻もず



いぶん回っておりますから、こちらでご姉妹と一緒に遊びなさいませ。」

(21) 袭人见他脸都气黄了，眉眼都变了，从来没气的这样，便拉着他的手笑道：“你同妹妹拌嘴，不犯着砸它。倘或砸坏了，叫她心里脸上怎么过得去！”（第29回）

襲人は彼の顔が怒りのせいですっかり土気色になり、顔つきが一変し、これまでにはなかったようなとげとげしい様子をしているのを見ると、彼の手を引き寄せて笑いながら言いました。「あなた様が妹さまと口喧嘩をなさったからといって、これを粉々にしてはなりません。もしも本当に粉々にしてしまったら、あちらはお気持ちの上でも体面の上でも、どうして平気でいられますか？」

例(21)中原文の“妹妹”是袭人借用宝玉的口气来称呼林黛玉，但译文却按照袭人自己的口气选用了仆人对主人的尊称「妹さま」，显然译文体现了袭人的身份地位。同样，例(22)中原文虽然是“林妹妹”，但译者根据史湘云的年龄身份认为这里应该是“林姐姐”的笔误，并据此译为「林のお姉さま」，也是为体现话者身份做的调整<sup>⑧</sup>。

(22) 凤姐笑道：“这个孩子扮上，活像一个人，你们再看不出来。”……史湘云接着笑道：“倒像林妹妹的模样儿。”（第22回）

熙鳳は笑いながら言いました。「この子は誰かさんにそっくりね。あなたたち、これでもまだピンと来ないの？」……湘雲はそれを承けて笑いながら言いました。「林のお姉さまにそっくりだわ」。

## 五、敬称的日译

《红楼梦》中“大妹妹”一词表示姻亲关系，敬辞“大”表示敬意。有时也与姓氏一起使用，如“薛大妹妹”“史大妹妹”等。译者根据话者身份原则和统一原则采用了直译、敬称和昵称等翻译手法。

### (一) 直译

日语中用「義妹」表姻亲关系，例(23)(24)中的“大妹妹”是贾珍夫妇对堂弟贾琏媳妇王熙凤的称谓，例(25)则是贾珍对族人贾璜媳妇金氏的称呼。新译本译为「義妹」「義妹さん」是直译，符合说话人的身份地位，展现了王夫人格守礼教、贾珍道貌岸然的人物特点。

(23) 王夫人道：“前日听见你大妹妹说，蓉哥儿媳妇儿身上有些不大好，到底是怎么样？”（第11回）

王夫人が言いました。「先日あなたの義妹から聞きましたが、蓉ちゃんの媳婦は体の具合があまり思わしくないそうですね。」

(24) 贾珍断不肯坐，因勉强陪笑道：“侄儿进来有一件事要恳求二位婶婶并大妹妹。”（第13回）

賈珍は決して座ろうとせず、どうにか愛想笑いを浮かべて言いました。「この甥めが参上いたしましたのは、お二人のおばさまと義妹さんにお願いがあるからなのです」。

(25) 贾珍向尤氏说道：“让这大妹妹吃了饭去。”（第9回）

賈珍は言いました。「こちらの義妹さんにご飯を上がってもらいなさい。」

(二) 译为敬称

与王夫人和贾珍口中的“大妹妹”不同，新译本把例(26)中的“大妹妹”译为了表血缘关系的敬称「妹さん」，同时又突出姓氏「薛の」以区分内外，体现了李纨亲和却恪守礼教的人物特点。例(27)中的“大妹妹”则译为了稍显亲昵的敬称「单字+さん」结构，弱化了“大妹妹”的姻亲关系义项，展现了姊妹间相敬如宾的和睦氛围，同时也与宝钗在其他场合对史湘云的称谓日译形成统一，提高了译本的易读性。

(26) 李纨笑道：“我替薛大妹妹也早已想了个好的，也只三个字。”（第37回）

李纨が笑いながら言いました。「わたしは薛の妹さんのためにとくにいいのを思っています。これもたった三文字なんですけれど」。

(27) 宝钗走来道：“史大妹妹等你呢。”说着便推宝玉走了。（第20回）

そこへ宝釵がやって来て、「雲さんがあなたを待っていますよ」と言うと、宝玉を押しやっ行ってきます。

(三) 译为昵称

“大妹妹”一词译为昵称的例子并不多见，仅见例(28)。因其语境与例(12)相同，所以这里将“薛大妹妹”译为昵称「宝釵ちゃん」是遵循的上下文统一的原则。

(28) 凤姐听了，冷笑道：“……但昨儿听见老太太说，问起大家的年纪生日来，听见薛大妹妹今年十五岁，……”（第22回）

熙鳳はそれを聞くと、冷笑して言いました。「……でも昨日、おばあさまのお話を伺ったところ、みんなの年齢や誕生日をお尋ねになって、宝釵ちゃんが今年十五歳になると聞き、……」

## 六，昵称的日译

“好妹妹”一词出现次数较多，新译本根据说话人的交际意图和亲疏关系等把它译为了「单字+ちゃん」结构的昵称或简化为对称词。

(一) 译为昵称

日语中用亲属称谓语呼称他人时，上级对下级不能使用相应的下位亲属称谓，比如“妹妹”不能呼称「いもうと」，而应该使用「名+さん(ちゃん)」<sup>①</sup>。比如(29)就使用了「名字+ちゃん」结构。

(29) 薛蟠在外边听见，连忙跑了过来，对着宝钗左一个揖，右一个揖，只说：“好妹妹，恕我这一次罢！”（第34回）

薛蟠は表でそれを聞くや、急いで駆け込んで来て宝釵に向き合い、ペコペコお辞儀しながらひたすら言いました。「宝ちゃん、今度ばかりはお許しを!」

值得一提的是，《红楼梦》前45回中，“好妹妹”一共出现了22次，其中16次出自贾宝玉对林黛玉的称呼，可见这是贾宝玉惯用的昵称，与他对林黛玉的爱称“林妹妹”“妹妹”具有相同功能。新译本将三者统一译为「黛玉ちゃん」，增强了译本的易读性。既符合日语中「名字+ちゃん」的表达习惯，又符合人物形象。

(30) 刚到了院中，只见宝玉进门来了，笑道：“好妹妹，昨儿可告我不曾？教我悬了一夜心。”（第27回）

中庭まで来たところで、宝玉が門から入ってくる姿が見え、彼は笑いながら言いました。「黛玉ちゃん、昨日はわたしのことを言いつけたの？一晩じゅう心配でたまりませんでしたよ」。

## （二）译为对称词

日语会话中，姐姐在称呼妹妹时倾向于使用对称词「あなた」<sup>19</sup>。因此例（31）将“好妹妹”译为「あなた」既符合日语习惯，又体现了尤氏与王熙凤的亲密关系。

(31) 尤氏道：“好妹妹，媳妇听你的话，你去开导开导她，我也放心。”（第11回）

尤氏が言いました。「あなた、媳婦はあなたのお話ならちゃんと聞くから、元気づけてやっつてね。私も安心ですから。」

## 七、谦称的日译

“妹妹”一词表谦称的例子极少，如例（32）。在这里林黛玉尊称袭人为“嫂子”，谦称自己为“妹妹”是为了打趣，意指三人的关系亲近。日语中的「妹」是指自家的妹妹，意指同一集团内部的人际关系。译文用直译体现了说话人的人际意图。

(32) 黛玉道：“二哥哥不告诉我，我问你就知道了。”一面说，一面拍着袭人的肩，笑道：“好嫂子，你告诉我。必定是你两个拌了嘴了。告诉妹妹，替你们和劝和劝。”（第31回）

黛玉が言いました。「二のお兄さまが話してくださらないのなら、あなたにお尋ねすればわかるわ。」そう言いつつボンと襲人の肩を叩くと、笑いながら言いました。「お嫂さま、教えてくださいね。きっとお二人で喧嘩なされたんでしょ？妹に教えてくだされば、仲直りさせてあげます。」

综上所述，新译本中在翻译“妹妹”称谓语时，最大限度尊重了原文，做出了一一对译。译者根据语境、说话人的心理、身份地位、亲疏意识和交际意图等采用了音译、直译、意译、译为敬称、尊称、昵称和简化为对称词等多样化翻译手法。这也为翻译中国文化负载项提供了两个重要的启示，一是从读者导向入手，在对译词的选择上尽可能遵循统一原则；二是从人物视角入手，选择符合其人际语用意图和身份构建的译词，提高译本的易读性。这也为我们提示了人际语用意图和身份构建在翻译中的实现路径，为翻译教学提供了成功的示范。

## 注释

- ①本文是中国国家留学基金研究课题“日语言语行为的人际语用学研究”的研究成果（留金项 [2021] 15 号），是 2021 年广东省一流本科课程建设项目《高级日语（2）》（粤高教函 [2022] 10 号）的阶段性成果；是广东工业大学“本科教学工程”特色专业项目“‘交际·语用·翻译’三位一体模式下的日语应用型人才培养”（广东大教字 [2021] 71 号）的阶段性成果。
- ②陈毅平.《红楼梦》称谓语翻译对比研究. 红楼梦学刊, 2012 年第 1 期: 第 284 页—309 页。
- ③周方珠. 权势与规约性一谈〈红楼梦〉中的称谓翻译. 外语与外语教学, 2007 年第 1 期: 第 48 页—51 页。
- ④井波陵一. 新訳紅樓夢 (二). 岩波书店, 日本东京, 2013 年, 第 40 页。
- ⑤井波陵一. 新訳紅樓夢 (二). 岩波书店, 日本东京, 2013 年。
- ⑥胡开宝. 语料库翻译学: 内涵与意义. 外国语, 2012 年第 2 期: 第 59-70 页。
- ⑦セペフリパディ・アザム. 現代日本語における家族に呼びかける際の呼称表現. 一橋日本語教育研究 1 号, 2012 年: 第 61-72 页。
- ⑧井波陵一. 新訳紅樓夢 (二). 岩波书店, 日本东京, 2013 年: 第 63 页。
- ⑨酒井順子. 「オワ」. 『トイレは小説より奇なり』集英社文庫, 1995 年: 第 90-96 页。
- ⑩井波陵一. 新訳紅樓夢 (二). 岩波书店, 日本东京, 2013 年: 第 40 页。
- ⑪方经民. 日汉亲属称谓的语用情境对比研究 [J]. 语言教学与研究, 2001 年第 2 期: 第 1-9 页。
- ⑫同⑦。

## 作者简介:

刘珏, 广东工业大学外国语学院专职教师、大思政课建设协同创新中心专职教师, 博士, 副教授, 主要研究方向: 汉日比较语言学、汉日翻译

联系方式: ljue73@163.com

080-8522-8094 (日本)